

會 告 日 本 鐵 鋼 協 會

日 本 標 準 規 格 私 費 印 刷 分 讓 の 件

1. 内容、形式、寸法共 商工省御編纂 のものと同一なり。
2. 代金は 1 枚に付き 金壹錢也とす。
但し郵税は實費。第四種郵便にて 17 枚迄で 2 錢 18 以上 36 枚迄で 4 錢 其れ以上は 20 枚内毎 2 錢増しのこと。

本 會 の 發 行 日 本 標 準 規 格 目 次

規格 番號	類別 番號	名 稱	決 定 年 月 日 大正	商 工 省 告 示 番 號	右 同 告 示 年 月 日 大正	枚 數	規格 番號	類別 番號	名 稱	決 定 年 月 日 大正	商 工 省 告 示 番 號	右 同 告 示 年 月 日 昭和	枚 數
第1號	B1	金属材料抗張試験片	11.10.19	43	14.3.5	2	40	H1	銅 板	15.6.23	30	2.10.22	3
2	B2	針金の徑、薄板の厚 及其の稱呼	〃	44	〃	1	41	H2	黄 銅 板	〃	31	〃	3
3	Z1	寸法標準數	13.3.27	17	14.9.18	1	42	H3	アルミニウム板	〃	32	〃	3
4	Z2	等比標準數	〃	〃	〃	1	43	H4	銅 棒	〃	33	〃	3
5	G1	鍛 鋼 品	〃	9	〃	4	44	H5	ネーバル黄銅棒	〃	34	〃	3
6	G2	鑄 鋼 品	〃	10	〃	4	45	H6	高力黄銅棒	〃	35	〃	3
7	G3	鑄物用銑鐵	〃	11	〃	1	46	H7	火延黄銅棒	〃	36	〃	3
15	G4	水管罐用繼目無鋼管	14.3.27	18	15.10.26	2	47	H8	挽物用黄銅棒	〃	37	〃	2
16	G5	圓罐用繼目無鋼管	〃	19	〃	3	48	H9	繼目無鋼管	〃	38	〃	3
17	G6	機關車罐用繼目無鋼管	〃	20	〃	2	49	H10	機關車罐用繼目無 黄銅管	〃	39	〃	2
18	G7	一般用繼目無鋼管	〃	21	〃	3	50	H11	復水器用繼目無黄銅管	〃	40	〃	2
19	G8	瓦 斯 管	〃	22	〃	1	51	H12	復水器パツキング 抑用繼目無黄銅管	〃	41	〃	1
20	G9	構造(橋梁、建築其 の他)用壓延鋼材	〃	23	〃	6	52	H13	一般用繼目無黄銅管	〃	42	〃	2
21	G10	造船用壓延鋼材	〃	24	〃	5	53	H14	銅 地 金	〃	43	〃	2
22	G11	罐用壓延鋼材	〃	25	〃	6	54	K1	銅地金分析方法	〃	18	昭和 3.5.23	12
23	G12	鐵道車輛用壓延鋼材	〃	26	〃	6	55	K2	鐵及鋼炭素分析方法	2.10.3	20	4.5.13	5
24	G13	壓延鋼材の寸法及 重量の公差	〃	27	〃	2	56	K3	鐵及鋼珪素分析方法	〃	〃	〃	5
25	G14	標準棒鋼	昭和 2.10.3	23	昭和 4.5.13	4	77	G18	罐用繼目無鋼管の寸法	3.10.18	32	5.6.2	1
26	G15	標準形鋼	〃	29	〃	16	78	G19	一般用繼目無鋼管 の寸法	〃	23	〃	2
36	B8	管用れど	大正 15.6.23	26	昭和 2.10.22		79	G20	可鍛鑄鐵品	〃	24	〃	3
37	B9	管接手れど	〃	27	〃		80	G21	水道用鑄鐵管	〃	25	〃	4
38	G16	瓦斯管の寸法	〃	28	〃	1	81	H15	水道用鉛管	〃	26	〃	3
39	G17	銑	〃	29	〃		82	H16	亞鉛地金	〃	27	〃	2

以上の外設計上の参考及製作規格等本會に關係するも多々あれども追ふて發行するものとす。

實物寸法 15.9mm 一四寸五分五厘

JES	日本標準規格	第55号
鐵及鋼炭素分析方法		類別 K2
		頁 1

第一章 総 則

第一條 本規格ニ鉄及鋼ノ炭素分析方法ニ之ヲ適用
 第二條 鐵及鋼炭素分析方法ニ次ノ3種トス
 一、炭素量及鉄炭素量分析方法
 二、特殊炭素量分析方法
 三、合金鉄炭素量分析方法

第二章 炭素量及鉄炭素量分析方法

第三條 本條ノ炭素量分析方法ニ炭素、遊離炭素及化合炭素ノ定量法トス
 第四條 合金炭素量法ニ次ノ法トス
 一、要 旨
 試料ヲ坩堝ニ燒却シテ直接ニ炭素ノ気流中ニ於テ熱シテ炭素ヲ完全ニ酸化セ
 シテ炭素ヲ測定スルニシテ之ヲ曹達石灰又ハ曹達石灰ニ吸收セシメテ増量ヨリ炭素
 ノ定量ス
 二、設 置 (附図参照)
 (一) 炭素瓦斯清淨装置
 本装置ハ瓦斯槽 (a) ニ貯ヘタル炭素瓦斯ヲ其ノ中ニ含有スル炭素瓦斯又ハ有
 機性瓦斯等ヲ除去シ且清淨炭素ヲ「クロム」酸和硫酸 (硫酸比重量 1:02)
 フスレタガ洗瓶 (b)、曹達石灰又ハ曹達石灰ヲ填メタル管 (c) 及硫酸 (比重
 1.04) フスレタガ瓶 (d) フリテ炭素ヲ清淨スルニシテ
 (二) 燃焼炉
 燃焼炉ハ内徑約 3cm ノ管狀電熱炉 (f) 又ハ適當ノ瓦斯炉ニシテ電流又ハ瓦
 斯ヲ調整シ「バイロメーター」ニ依リ其ノ中央部ニ炭素試料約 10mm 一一定温度
 ニ保持シ得ヘキモノトス
 炉ニ其ノ四端ニ約 16mm 突出シ得ヘキ長ヲ有スル内徑約 2mm ノ燃焼管
 管 (e) フ挿入ス又ハ管中ニ挿入セラルヘキ燃焼「ポット」ノ位置ノ後方約
 10mm 至リテ白金石綿、「パラフィン」石綿又ハ酸化炭素石綿ヲ填メタルモノ
 トス
 (三) 瓦斯吸收装置
 本装置ハ燃焼炉ヨリ出タル瓦斯ヲ吸收セシメタル「クロム」酸和硫酸 (硫酸
 比重量 1:02) フスレタガ瓶 (g)、五酸化磷 フスレタガ瓶 (h) 及曹達石灰又ハ曹達
 石灰 フスレタガ瓶 (i) 等ヨリ成リタル瓦斯ヲ約 2cm ノ厚ニ五酸化磷 フスレタガ瓶
 又ハ炭素瓦斯吸收

昭和二年十月三日決案 工業品規格統一調査會

北川 水雄	南滿洲鐵道會社理學試驗所		
金七圓貳拾圓也	(自昭和五年七月至昭和六年六月)		
橋本 温乎 松井 武美	武内 武夫 黑崎 源一 大和 林八 後藤 尙 出羽 善次 佐野 半兵衛	見邊 良太 佐藤 孫三 平瀬 浩彦	
金七圓貳拾錢也	(自昭和四年七月至昭和五年六月)	佐藤 英一	
金六圓也	(自昭和五年九月至昭和六年六月)	清 通 胤	
金六圓六拾錢也	(自昭和五年八月至昭和六年六月)	三橋 錄三	
金五圓八拾錢也	(自昭和五年十一月至昭和六年六月會費及入會金)		原口 太吉
金五圓貳拾錢也	(自昭和五年十二月至昭和六年六月會費及入會金)		牛田 包美
金四圓八拾錢也	(自昭和五年十一月至昭和六年六月)	岡田 實	白土 四郎
金四圓六拾錢也	(自昭和六年一月至昭和六年六月會費及入會金)		
井原 信行 山崎 信三	小田 助男 和田 敏男 永山 巽 山之内 弘 廣瀬 鐵治	金子 吉雄	森本 瀧彌
金四圓貳拾錢也	(自昭和五年十二月至昭和六年六月)	大江 繁樹	田丸 善政
金參圓六拾錢也	(自昭和五年七月至昭和五年十二月)	大成 省三	茂木 吉治
金貳圓七拾錢也	(昭和六年二月より六月に至る)	石川 竹盛	

會誌改良に就て會告

豫め公告せし通り會誌は去一月號より下記の通りに改正致しました。夫れに就て會員諸彦の御所見承りて参考に供したいと思ひます。

1. 2 段組とし紙質を改めて寫眞圖版など從來のものに比して鮮明になつたと思ひます。
2. 索引が著者名引及題目名引となり著しく改善を加へました。
3. 特設公告拔萃及内外雜誌に著れた論文題目名拔記を載せる事にしました。以上之等は今後尙ほ一段と進みたいと思ふて居ります。

編輯